

戦後80年

伝える、 つなぐ、 受け継ぐ



平和を願う禎子の折り鶴

市役所本庁舎市民ふれあいプラザに展示されている「^{さだこ}禎子の折り鶴」をご存じですか？

1945年、2歳のときに広島で被爆し、12歳で白血病を発症した佐々木禎子さんが、病中で折り続けた小さな鶴。それは今もなお、平和の大切さを静かに語りかけてくれます。

市は、恒久平和を目指す「平和都市宣言」と「核兵器廃絶平和都市宣言」を掲げ、平和啓発の象徴として禎子の折り鶴と、それをモチーフにした金属製の折り鶴「SADAKO」を展示しています。戦後80年を迎える今、戦争の記憶を風化させず、平和について考えてみませんか(2面に続く)。

多様性社会推進課 ☎(81)7150

「禎子の折り鶴」と「SADAKO」

禎子の折り鶴は100羽ほどしか現存しないもの。先に折り鶴が寄贈されたアリゾナ記念館のあるホノルル市・郡と茅ヶ崎市が姉妹都市である縁から、禎子さんの甥、佐々木祐^{ゆうじ}滋さんより市に寄贈されました。

また、2023年に開催されたG7広島サミットで各国首脳に贈られた金属製の折り鶴「SADAKO」も後に寄贈されました。羽の裏には「G7 HIROSHIMA」の文字が刻印されています。

広報紙がいつでも読める
多言語・音声でも
カタログポケット



広報ちがさき

CHIGASAKI